

むかし。乗り合い船が、渡し場を出たところで、突然止まってしまいました。すると、船頭が、お客たちにいいました。

「これは、わにざめが、みなさんの中のだれかを見こんだに違いありません。どうか、めいの持ち物をひとつずつ、海へ投げ入れてください。見こまれていない人の物は、そのまま流れるけれど、見こまれた人の物は、水の中にしずみまます」

そこで、乗り合いの人たちは、それぞれ持ち物をひとつずつ出して、海に投げ入れました。すると、げんなさんという医者坊主の投げた手ぬぐいだけが、引きこまれるようにしずんでいきました。げんなさんは、

「みなさんの難儀を救うためならしかたがありません。わたしが、わにざめに飲まれましたよ」といつて、薬箱を肩にかけて、水の中に飛びこみました。すると、わにざめは、げんなさんを飲みこんでしまいました。たちまち、船は、すうつと動き出しました。

げんなさんは、わにざめの暗いお腹の中でしばらく考えていましたが、やがて、たすきがけて、薬箱の中から、一番苦い薬を取り出しました。そして、それを、わにざめのお腹の中いちめん、一生懸命にぬりつけました。わにざめは、あんまり苦くて、あばれまわりましましたが、とうとう、がまんできなくなつて、げえつと薬をはき出しました。それといっしょに、げんなさんもはき出されて、なぎさの砂の上に投げ出されました。

船の人たちはそれを見て、「それっ」といつて、船を岸にこぎよせて、げんなさんを助けました。

「わにざめのお腹の中はどんなふうでした」と、みんながきくと、げんなさんは、「まっくらでしたよ。でも、薬箱の中で一番苦い薬をぬりつけたら、こうやって、はき出してくれました」といいました。

みんなは、「よかった、よかった」といつて、砂浜でお祝いの酒盛りを始めました。

「げんなさん、あんたが先にひとつお踊りなさい」と、みんながいうので、げんなさんもその気になって、はちまきをして、歌いながら踊りました。

わにざめエに 飲まアれて

そしてまた はアき出さアれ・・・

すると、海の中から、わにざめが顔を出して、

汝^{うな}よな 臭ア坊主

飲んだことねア

こんど初めて

飲んでみたッ

と、歌いましたとき。

村上郁再話

資料『聴耳草紙』佐々木喜善著／筑摩書房